

● 地域提案型

平成18年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	ラオス
2. 事業名	ラオス・サイタニー郡における畑作・園芸技術導入 Introduction of skills and know-how on dry field farming and floriculture to Xaythany Distric, Lao PDR
3. 事業の背景と必要性	<p>愛知万博を契機としたサイタニー郡との交流事業の検討において、現地の状況等を確認するため、平成18年4月にサイタニー郡、JICAラオス事務所、並びに政府機関等を訪問した。この訪問及びサイタニー郡との協議の中で、サイタニー郡から農業及び教育への協力を要請され、田原市としても同意したところである。</p> <p>特に農業については、田原市は農業産出額で全国一を誇る農業地帯であり、花卉、畜産、露地野菜等の生産において技術を持っている。このような中で、サイタニー郡訪問において複数の家族で運営される野菜の農場や米作農家、畜産農家を視察した際、その生産技術や施設の遅れ、また、販売体制等の遅れが確認された。</p> <p>また、花束をはじめレストランや訪問先などのテーブルフラワーなど、国内で消費される生花の多くがタイからの輸入とのことで、ラオス国内における花卉栽培も遅れており、最貧国からの脱却を目指すラオスにおいて、その実現のためには、国内の生産力の増強と、それによる海外からの輸入を減らすことが求められている、との認識から、田原市としては、その特徴を生かし、畑作・園芸技術の向上に向けた技術協力が適当と判断したところである。</p> <p>このような中、田原市からの専門家派遣及びサイタニー郡関係者による田原市の視察及び協議により、バラの栽培についての研修を行う。</p>
4. 事業の目的	現地に適した畑作・園芸作物の選定及び栽培技術の向上
5. 対象地域	ラオス国ヴィエンチャン特別市サイタニー郡
6. 受益者層	ヴィエンチャン特別市サイタニー郡の農民
7. 活動及び期待される成果	<p>【活動】</p> <p>1-1 田原市におけるバラ栽培に必要な基礎的な技術指導と帰国後の栽培技術の適用に対する技術アドバイス（活動レポートに対するコメント、専門家派遣による指導）</p> <p>1-2 田原市における花卉栽培や農作物の栽培の基本となる土作りや畝を導入した作付けに関する技術指導</p> <p>2-1 雨季、乾季におけるバラ栽培の状況確認及び肥培管理の指導</p> <p>2-2 土作り、畝の導入等に関する指導、現地栽培技術の問題把握と改善</p> <p>【期待される成果】</p> <p>1. 研修員が田原市においてバラの栽培技術の習得及び土作りに関する技術を習得する。ラオスにおける露地栽培技術の改善を図る。</p> <p>2. 現地における田原市専門家の栽培指導により、サイタニー郡技術者がバラ栽培の定着と土作りに関する技術を習得する。</p>
8. 実施期間	平成19年11月～平成21年11月
9. 事業の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> 研修員は、実際に農家でバラの栽培管理、出荷等の作業に従事し、研修先の農家から技術を習得する。露地における作物栽培の基礎となる土作りや畝作り等についても農家で研修する。 研修員は、帰国後に栽培試験場や農家に対し技術指導し、バラ栽培の定着と土作りを進めるとともに、畝を活用した効率的な栽培方法等の普及に努めるものとする。また、サイタニー郡における普及活動について、6ヶ月に1度活動レポートを田原市に提出するものとし、そのレポートに対し田原市の専門家がコメントし、研修員をフォローしていく
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	田原市（愛知県田原市）
2. 対象国との関係、協力実績	田原市による直接的な活動は本件が最初であるが、1988年からJICA筑波の「かんがい排水・農村開発コース」の視察及びホームステイの研修受入、また個別のJICA研修員の視察の受入を行っており、この間、8人のラオス研修員を受け入れてきた。